復興庁
Reconstruction Agency
復興・創生　その先へ

記者発表資料
令和６年５月１０日
復　　興　　庁

第３回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウムを開催します！

復興庁では、福島国際研究教育機構（F-REI）、福島県等のパートナーと連携しながら、浜通り地域等において、民間企業等の最先端の知見や技術、ノウハウを活かした官民のパートナーシップにより、生活環境向上のための実証事業に取り組むプログラム「浜通り復興リビングラボ」を、令和５年度から開始しています（別紙１、別紙２）。

本件に関連し、下記の通り、**第３回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウム**を開催します（プログラムは別紙３）。本シンポジウムでは、本年度の民間企業ご提案が発表されるとともに、リビングラボの活用に向けた、生活者・女性の視点でご議論いただくスペシャル・セッションの他、産官学のハイレベルな方々でリビングラボの方向性についてご議論いただくハイレベル・セッションを予定しています。浜通り地域等の復興に向けた産官学連携の取組にご関心のある多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお、令和６年度「浜通り復興リビングラボ」実証事業提案の応募締め切りは５月 31 日です。募集要項等の詳細は復興庁ホームページを参照ください。
https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-15/20240402102332.html

記

日時：令和６年６月１９日(水)　１３：００～１５：３０
会場：浪江町地域スポーツセンター秋桜アリーナ
　　（住所：福島県双葉郡浪江町権現堂下馬洗田５－２）
内容：
・開会挨拶
・「浜通り復興リビングラボ」今年度の進め方（復興庁）
・スペシャル・セッション
　「「安心して心豊かに生活できる場所」としての復興
　　～生活者の視点・女性の視点～」
・ハイレベル・セッション
　「創造的復興・魅力ある「ふるさと」づくりに向けて
　　～リビングラボという挑戦～」
・閉会挨拶

【お申し込み方法】

参加希望の方は、下記 URL または QR コードよりお申し込みください。定員に達した場合、締め切りさせていただくことがありますので、お早めにご登録ください。

https://forms.office.com/r/bDLYpzLEns

●取材について

・当日の取材を希望される社（者）は、社名、取材代表者氏名、取材予定時間、カメラ撮り希望の有無（有の場合はスチール or ムービー）を、復興庁原子力災害復興班（まちづくり担当）（E-mail　g.machi.v5f@fukko.go.jp）まで事前に登録してください。（登録締切：６月７日）

・取材に当たっては、現地担当者の指示に従ってください。

・取材される方は、必ず社名入りの腕章を着用してください。

【お申込・問合先】復興庁 福島広域まちづくり班
笠間、中村、石川
TEL：03-6328-0246　E-MAIL：g.machi.v5f@fukko.go.jp

（参考）浜通り復興リビングラボ概要

別紙１

復興庁
Reconstruction Agency
復興・創生　その先へ

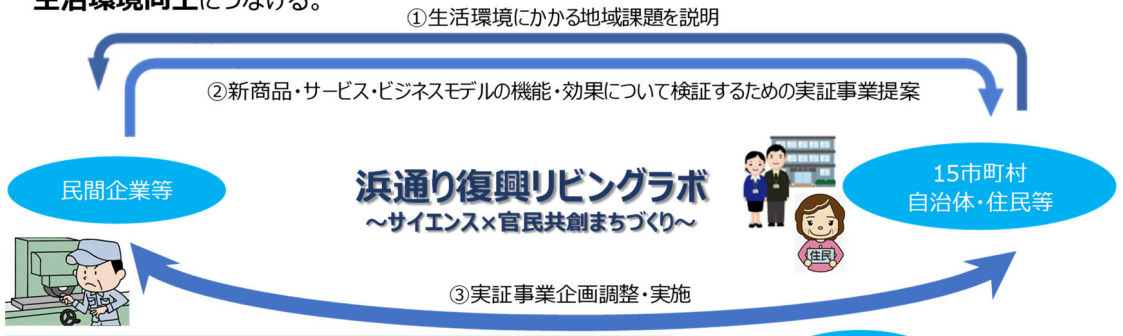
浜通り復興リビングラボ
～サイエンス×官民共創まちづくり～

背景・目的

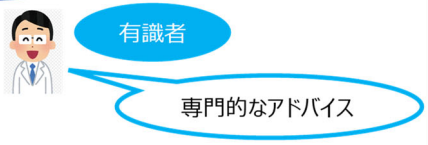
・福島国際研究教育機構(F-REI)が浜通りに立地することにより、国内外から研究者やその家族が浜通りに移住・定住することが想定され、浜通りでは、従来の住民や移住者はもとより、今後来訪する研究者のためにも**生活環境を向上**させていくことが期待される。
・F-REIにおいて、多くの実証事業が浜通り地域において実施されることとなり、**地元の実証事業受入能力**の更なる向上が必要。
⇒最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用し、**住宅、医療、教育、交通、買物等の生活環境に係る地域課題の解決**につなげることを目指すとともに、**浜通り地域における実証事業受入能力向上**を支援するため、「浜通り復興リビングラボ」事業を実施する。

浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～

住む（住宅）、出かける（交通）、学ぶ（教育）、癒やす（医療）、楽しむ（買物・娯楽等）といった生活環境分野で、**産学官の協働のもと、実証事業の企画・実施**を行い、**地域における生活環境向上**につなげる。



パートナー：F-REI、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、環境省、UR都市再生機構、NEXCO東日本、Ag Venture Lab、メタバース推進協議会、講談社、ドリームデザイン
学術連携パートナー：福島大学 地域未来デザインセンター、東北大学 グリーン未来創造機構



※リビングラボ：生活の場（リビング）を実験場（ラボ）としてイノベーションを実践すること。

R6年度スケジュール

4月：4/5(金)実証事業参加企業公募開始（済）
4/16(火)公募企業向け説明会
(地域課題共有)
4/18(木)企業間意見交換会@復興庁
4/23(火)現地視察

5月：5/31(金)公募〆切

6月：マッチング会議発表企業決定（今回発表のシンポジウム！）
6/19(水)　第3回シンポジウム
マッチング会議

実施プロジェクト決定・発表
実証事業企画調整
調整が整った事業から順次実施
（原則としてR７年度末まで）

３月：第４回シンポジウム
専門家による実証事業総評

参加の主なメリット(自治体)

・民間企業の知見や財源を活用しながら、地域課題を民間企業と共に最新技術で解決する、**地元主体のまちづくり**を実感できる。
・未来のまちの姿に向け、地域住民が新商品・サービス・ビジネスモデルを使った**より良い暮らしを一足先に体験**することができる。
・実証から実装へ向けた展開を支援することにより、浜通りにおける**地域課題の解決**、ひいては**F-REI研究者受け入れ環境の向上**につなげられる。

参加の主なメリット(民間企業)

・地域住民が生活の中で抱える課題に即して、**新しい商品・サービス・ビジネスモデルの開発**を行うことができる。
・参加者募集や関係団体等との調整など、**受入自治体や復興庁、専門家の支援**が得られる。
・「福島復興」という**社会的意義のある目標**に貢献できる。
・技術的な課題について、**将来のF-REI研究との連携も視野**に入る。

（参考）令和５年度実証事業マッチング結果

別紙２

浜通り復興リビングラボ 【令和５年度実証事業マッチング結果】

復興庁 Reconstruction Agency
復興・創生　その先へ

【南相馬市×URシステムズ】
ChatGPTを活用した市民サービス向上（空き家等照会対応サービスを事例として）

【南相馬市×フジタ】
ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上

【飯舘村×フジタ】
ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上

【いわき市×DeNA】
防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施

基点からの時間圏域
- 10分未満
- 30分未満
- 60分未満

区域
- 特定復興再生拠点区域(解除済み)
- 帰還困難区域
- 避難指示解除区域

★ F−REI
- 高速道路
- IC未供用
- 一般国道
- 鉄道

【浪江町×オリエンタルコンサルタンツ、NTT-ME、NTTインフラネット】
3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証

【浪江町×ウェザーニューズ】
災害被害情報収集システムの日常活用による安全・安心なまちづくり支援

【浪江町、双葉町、大熊町×ゼンリン】
ドライブレコーダー画像を利用した道路変化点(道路修繕必要箇所)の検知

【富岡町×オリエンタルコンサルタンツ、NTT-ME、NTTインフラネット】
3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証

【富岡町×DeNA】
防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施

別紙３

復興庁
第３回「浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～」シンポジウム
プログラム

日時：令和６年６月１９日（水）１３：００～１５：３０
会場：浪江町地域スポーツセンター秋桜アリーナ（福島県双葉郡浪江町権現堂下馬洗田５－２）

次　第

１　開会挨拶

復興庁	政務予定	
浪江町	町長	吉田 栄光

２　「浜通り復興リビングラボ」今年度の進め方

復興庁　福島広域まちづくり班	参事官	石垣 和子

３　スペシャル・セッション
「「安心して心豊かに生活できる場所」としての復興～生活者の視点・女性の視点～」

パネリスト

富岡町　住民課	課長補佐	原田 恵美
葛尾村　教育委員会	主任主査兼係長	松本 昌子
放送大学 福島学習センター	所長・特任教授	
福島大学	名誉教授	中田 スウラ
福島国際研究教育機構	監事	中西 友子

ゲストコメンテーター

復興庁（調整中）

モデレーター

復興庁　福島広域まちづくり班	参事官	石垣 和子

４　ハイレベル・セッション
「創造的復興・魅力ある「ふるさと」づくりに向けて～リビングラボという挑戦～」

パネリスト

大熊町	町長	吉田 淳
川内村	村長	遠藤 雄幸
国際航業株式会社	会長	呉 文 繍
株式会社ゼンリン	取締役	藤沢 秀幸
福島国際研究教育機構	理事長	山崎 光悦

ゲストコメンテーター

東北大学 グリーン未来創造機構	副機構長	
災害科学国際研究所	教授	今村 文彦

モデレーター

東京大学	執行役・副学長	
大学院新領域創成科学研究科	教授	出口 敦

５　閉会あいさつ

復興庁審議官	瀧澤 謙

別紙４

第３回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウム
スペシャル／ハイレベル・セッションのパネリスト・モデレーター　一覧
（令和６年５月 24 日時点の確定者）

◆ハイレベル・セッション

モデレーター
出口　敦　氏
東京大学 執行役・副学長
大学院新領域創成科学研究科　教授

1990 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）。2011 年より東京大学教授。専門分野は都市計画学、アーバンデザイン、スマートシティ。日本都市計画学会会長（2020～2021 年度）、APSA（Asia Planning Schools Association）事務局長などを歴任。柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）センター長などを務める。2015 年・2016 年度日本都市計画学会石川賞（共同受賞）など受賞多数。

パネリスト
吉田　淳　氏
福島県大熊町　町長

法政大学経営学部を卒業。1979 年より大熊町職員となり、生涯学習課長、教育総務課長、総務課長を歴任。2016 年１月に大熊町副町長となり、2019 年 11 月より大熊町長に就任。2023 年 11 月に再選し、現在 2 期目。

パネリスト
遠藤　雄幸　氏
福島県川内村　村長

1982 年福島大学教育学部卒業。1999 年より川内村議会議員（１期）。2004 年４月に川内村長就任。2024 年４月に村長選挙当選。現在６期目。

パネリスト
山崎　光悦　氏
福島国際研究教育機構（エフレイ）　理事長

金沢大大学院工学研究科修士課程修了。工学博士（大阪大学）。前金沢大学長。2023 年にエフレイ初代理事長に就任。
文部科学省の「国際卓越研究大学の認定等に関する有識者会議」のアドバイザー、「地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業推進委員会」の委員長も務める。

パネリスト
呉　文繍（サンドラ・ウー）　氏
国際航業株式会社代表取締役会長
国連グローバル・コンパクト・ボード ボードメンバー

2013 年に国際航業株式会社の代表取締役会長に就任。
現在、国連グローバル・コンパクト・ボードのボードメンバー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、東北大学災害科学国際研究所特任教授、大学院大学至善館 評議員議長を務める。民間ビジネスを通じて、防災や SDGs を推進するための国連の活動に貢献。

パネリスト
藤沢　秀幸　氏
株式会社ゼンリン取締役

1986 年に株式会社リクルートフロムエー入社。2003 年に株式会社ゼンリンデータコム入社、代表取締役副社長を経た後、2016 年株式会社ゼンリンに入社。上席執行役員、常務執行役員、取締役常務執行役員などを経て 2024 年 4 月より現職。

◆スペシャル・セッション

モデレーター
石垣　和子
復興庁　福島広域まちづくり班　参事官

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官、（独）日本高速道路保有・債務返済機構監事、国連国際防災戦略事務局上級エコノミスト、国土交通省国際建設産業企画官等を歴任。2022 年８月より現職。

パネリスト
中田 スウラ　氏
放送大学福島学習センター所長・特任教授、福島大学名誉教授

早稲田大学文学研究科教育学専攻（博士課程）で社会教育・成人教育・地域教育等について学んだ後、1991 年に福島大学に着任。同大学人間発達文化学類長、うつくしまふくしま 未来支援センター長、理事・副学長等を歴任。福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会座長、文部科学省中央教育審議会委員・復興庁復興推進委員会委員を務める。

パネリスト
中西　友子　氏
福島国際研究教育機構（エフレイ）　監事

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。東京大学名誉教授・特任教授、星薬科大学名誉教授・前学長。内閣府原子力委員会委員、文部科学省科学技術学術審議会委員、ユネスコ国内委員会委員などを務め、福島第一原発事故直後から東京大学農学部の調査活動の纏め役として、15 回に渡る調査活動報告会を開催し、調査結果として「フクシマ土壌汚染の 10 年」（2021 年）等を出版。